炭労は「炭ほる仲間」

九州のうたごえ　着々準備すすむ

九州のうたごえがいよいよ近づいた。いま準備委員会では、さいごの仕上げに馬力をあげているが、大半の準備もとどこおりなく終了、当日の晴天を関係者は祈つているが、はじめ予定された場所の変更や、多くの宿泊者を受入れるのにテンヤワンヤである。

まず会場であるが十月四日午後六時から九時まで市民会館と笹林公園でひらかれ、ここで創作合唱の発表会がおこなわれる。本祭典は五日市体育館、三鉱体育館、それに港務所の港会館が予定されている。

野外祭典は、はじめ延命グラウンドにきめられていたが、延命公園に変更になつた。

会場も決定し、すでに具体的な作業にとりかかつている。当然かんがえられる宿泊人員、全九州のすみずみから参加者があつまるこれらの人たちは、炭労関係だけでも二百五十名ていどになるもようである。この人たちは集団社宅に宿泊がかんがえられている。炭労としては、炭労だけでもいちおうこのなかで交流しあい、おたがいに親しみあえるようにと計画をたてている。

なお、この人たちの宿泊費として三食で二百五十円でまかなつてもらうことになつた。

祭典終了日の五日、大会が終つたあと、炭労としての離別交流会を開催したいともかんがえられているが、また大会参加者のなかには五日にも宿泊する人が約百名ちかくいるもようでもあり、この人たちをふくめて三鉱労組としての交流もかんがえられている。

みんな参加しよう

当日の参加曲としては、炭労は「炭掘る仲間」「闘いのなかに」「ソレツケ節」

大牟田地区の参加曲は「炭掘る仲間」「青年よ祖国とともに」

三鉱の参加曲は、「燃やせ闘魂」となつた。

七万円集まる

主婦会でボロカンパ

生産停止と金員解雇の一方的な会社のやり方に敢然と闘つている日産鏡支部（熊本県八代市）は、闘争いらい三カ月にもなるが、いま連日くるしい闘いをつづけている。三池主婦会では九月六日に中央評議員会をひらいたが、苦しい闘いをつづけている同労組に援助しようということがきまりボロをカンパして換金し、闘争資金としておくることとなつた。

主婦会では鏡の闘いがはじまるやいちはやくオルグ四名を派遣して組合員や家族を激励するなど、支援を惜しんでいないが、こんどは資金カンパで支援することになつたもの。

ボロ回収は九月十六、十七日の二日間にわたりおこなわれたが、とりもれなどもあり、十九日に最後の回収をおこなつたが、各分会とも地域でおこなわれるボロ回収などもあり、少かつたが、一枚でも余計に出そうと、温い同志愛を発揮して立上つた。

回収は三輪車でおこなわれたが換金した結果、七万四千七百十九円という金額があつめられた。

残量の照りつけるなかに、三輪車に同乗した本部、支部役員は、汗とホコリで真黒な顔でせつせと回収にはげんだ。

心のふるさと

〝酒は飲め飲め　飲むならば
日の本一の　この槍を
飲みとる程に　飲むならば
これぞ誠の　黒田武士

〝峰の嵐か　松風か
たずぬる人の　琴の音か
駒をひきとめ　たちよれば
爪音たかき　〃想夫恋〃

〝春の彌生の　あけぼのに
四方の山辺を　見わたせば
花のさかりも　白雲の
かからぬ峰こそ　なかりけれ

〝花より明くる　三芳野の
春のあけぼの　見わたせば
唐国人も高麗人も
やまと心に　なりぬべし

〝花橘も　匂うなり
軒のあやめも　香るなり
夕ぐれざまの　五月雨に
山ほととぎす　名のるなり

〝古き都に　来てみれば
浅じが原とぞ　なりにける
月の光は　限りなく
秋風のみぞ　身には泌む

福岡市はいまでも那珂川を中心に東を博多、西を福岡と呼んでいます。福岡の町は、かつて黒田五十二万石の城下町でした。「酒は飲め飲め……」の文句にあるとおり、黒田藩全盛期の自慢話？として語りつたえられる物語があります。

豊臣時代、黒田藩きつての酒豪（アル中だつたのかも知れぬ）母里但馬という武士が、主の命をうけて戸田勘兵衛七本槍で名を知られた福島正則のところへ行き、酒のみ同志ゆえ四万山話しから、ついに飲酒競の件で我慢できなくなり一勝負をやることになつたのです。結果は但馬が正則を制し、福島家秘蔵の名槍「日本号」を褒美としてもらつたということです。

酒はほどほどに飲まぬと身を滅ぼすといわれるように、現代人の感覚としては賭ごとをして、先祖伝来の品をもらつたくらいのことで自慢するなんて馬鹿ばかしい逸話だとおもうのです。

本当に愛飲家のテーマ・ソングくらいにとりあげ、宴会などで騒乱の渦にまきこまれるのは一考を要するようです。

日本古風の雅楽より起つた

〝黒田節〟（福岡県民謡）

「黒田節」は雅楽中の旋律「越天楽」（エテンラク）からおこつたもので、昔は楽器をつかわぬ素唄だつたのです。平安朝時代、宮廷音楽にたいする庶民文化として、七五調の八句からなる「今様」が優美にうたいつたえられ、黒田藩時代に「筑前今様」となつて、武士間で独占され祝席などでうたわれたのです。当時の農士商の仲たちには全然なじまれてはいません。

一八七一年明治政府が廃藩置県をしくにおよび、旧藩主にかわり府県知事（初め三府三〇二県、ついで三府七二県）が各地に任命されこれからやつと一般大衆に口ずさまれ「黒田節」とよばれるようになりました。黒田武士の偉業？を賞美したところが抜けきれず、まだ人権の平等、身分制度の格差などいくぶんただよつた感じをうけるようでもあります。

明治—大東亜戦争敗戦まで、黒田藩の城跡には軍閥の支配階級が占拠し、軍靴の音で平和の二字は完全に抹殺されたのです。

傅丈夫は九州男子と刻印をおされ「黒田節」もまた質実剛健なメロディーに化し、かず多くの尊い犠牲者をだしたことはすでに御承知のところです。

現在では一大スポーツ殿堂をきずき「平和台」と名づけられ、炎天に夜間に西鉄ライオンズの三年連続日本一への進軍ラッパがこだます風景は、じつに皮肉といわざるを得ません。「夏草やつわものどもが夢の跡」の句もぴつたりするようです。

緊迫した情勢下に、騒音防止もなんのそのとジエツト機らの新鋭機がいり乱れ、福岡の空には暗雲がただよつています。これが私たちのふるさとなのです。戦争へのにくしみをよびおこし、平和を守るため雅楽風な郷土民謡の方向を誤ることなく、いつまでもうたいたいものです。（やました）

映画

娘の〃結婚〃をめぐるいんねん

彼岸花

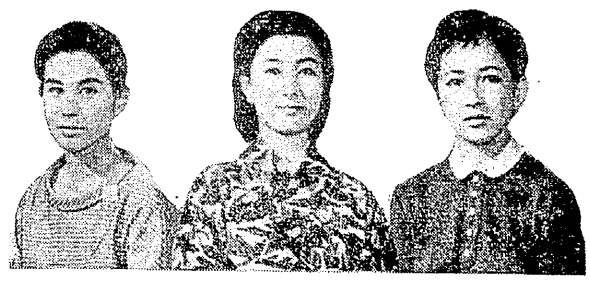
親と娘の〃結婚〃をめぐるいんねんばなしのような内容。新しいものと古いものとが未整理のまま混交しあつている現在日本の家庭を断面図にしてみせられる感じだ。功成り名をとげたとでもいつたふうの平山（佐分利信）は頭に白いものが見える年代。親友の娘の婚礼によばれた席上でいまの若い人たちの恋愛結婚をたたえる近代思想の持主である。だが彼の長女節子（有馬稲子）の恋人が現われて結婚を申し出るとかたくなに反対する。娘を不幸にしたくないという理由なのだが、娘の幸福を親の場からだけしかみれない、親たちの保守思想のしからしむるところである。

平山の親友三上（笠智衆）の娘（久我美子）は自分の幸福のために家出をし音楽家の男と同せいしている。

平山が行きつけの京都の旅館「佐々木」の女将（浪花千栄子）にいたつては、娘（山本富士子）のためにというよりも自分の好みだけで結婚を考えている。

そんな三組の親と子の結婚観をとりだし、小津安二郎監督は平山がついに折れて娘の結婚を認める心の移りかわりをうまく描きながら「親は子供のあとからその幸福を祈りながら歩いてゆくべきものだ」という。楠正成のうたをなつかしむ大人たちは「若いては子にしたがう」こと、そこに親の幸福をみいだすわけだが、社会や人間をみる目の古さは遠い昔のものがたりをきかされているようだ。

【二十三日より大天地で】



三池から三名

機関紙クイズ入賞

本紙できさに募集していました機関紙通信社の〃機関紙クイズ〃の発表が、九月上旬に東京でおこなわれました。三池からも多数の人が応募されていましたが、左記の三氏が入賞されました。

○日本機関紙印刷所賞五百円＝宮本正一

○学習の友社賞「学習の友」誌半年間無料贈呈＝中山マツノ、渡辺節子

闘争および解答はつぎの通り

サ	サ	■	キ	ン	セ	イ
ク	ラ	イ	シ	■	ノ	■
ラ	■	ソ	■	マ	キ	バ
■	ナ	ツ	ヤ	ス	ミ	■
ラ	ン	プ	■	コ	■	サ
■	カ	■	ク	ミ	ア	イ
ア	イ	サ	イ	■	ソ	ン

【タテのカギ】(1)日本の花(2)一マイ、二マイ、三マイ……(3)昭和十六年十二月、当時東条内閣の閣僚だつた(4)夫の古いよび名(6)だれでも知つているギリシヤの童話作家(7)新聞、ラジオ、テレビなど(8)パ・リーグのチーム(10)——ぜめにあうスター(11)砂川の人びとは「土に——はうたれても、心に——はうたれない」とがんばつた(12)六月二十四日、突然大爆発をおこした

【ヨコのカギ】(1)大高源吾は橋の上(3)ロケットにのつてゆける日もやがてくるでしよう(5)労働組合を弾圧するとはりきつている(7)牛馬などを放飼する場所(8)楽しい楽しい……(9)最近ではあまり見られません(11)私たちの生活と権利を守るために闘う組織(13)アツイ、アツイ(14)寒気は——気

加藤充さんの死

緑ガ丘、或いは三川掘進の人々にとつて、強く印象づけられていた加藤さんが急死した。四十二才の若さで、ついに帰らぬ人となろうとは、皆無想だにしなかつたのに、「加藤さんは死んだ」この悲報に接したとき、私はありし日の加藤さんのことを強くかんがえずにはいられなかつた。

頭髪はやや少なくなり、体はずい分やせていた。色は浅黒く、せい肉などみようにも見られなかつた。年中冒瀆病にも犯され通しでずい分苦しんでいた。それにもかかわらず加藤さんは、組合運動その他世話役活動にも骨身惜しまなかつた。加藤さんは日支事変から大東亜戦にかけて七年以上も転戦し、ニューギニヤで終戦をむかえた。このニューギニヤでのキガと勇敢であつた。地域においての遺憾のない「職長ツ」と大きなユーモラスな叫びも、もうきかれないと思えば淋しくなる。

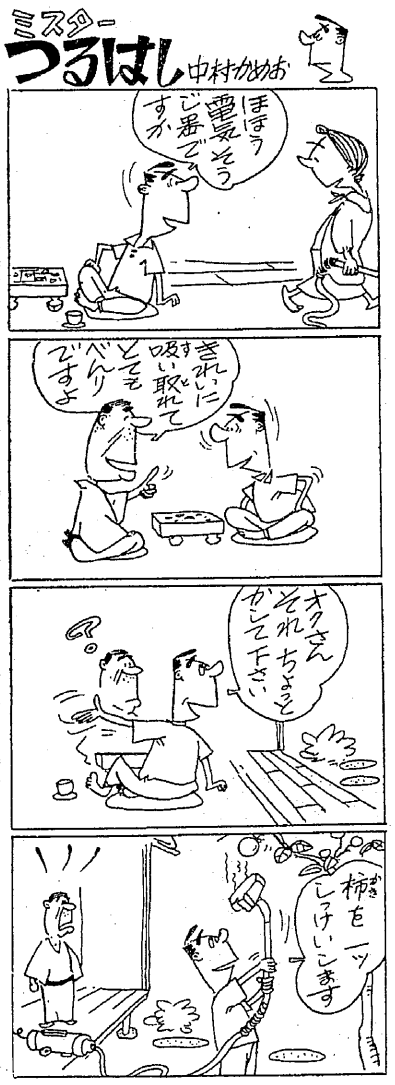
通勤列車のなかでも彼の死は誰よりも話題になり惜しまれた。

彼のおこないは私心を去つていた。個人的な名誉心も利害も超越していた。この点を大衆はよく認めているのであろう。彼は全労働者階級の前進と団結をささえ続けた無名の戦士である。

私たちは彼の死を無名にしてはならない。彼のような無数の活動家が育てられ出現するとき、組合はもつと強く、平和の闘いもより広く深くなり、彼の魂に報いることができるだろう。

加藤さんは叫んでいる。「俺のような犠牲者はもう沢山だ。現在生きている皆さんこそ幸を闘いとるまで頑張りなさい」と。

楓町　坂口次男



なかまの本棚 (3)

レーニンの「青年婦人論」

戦後十三年の組合運動で私達は「生活を向上させる闘い」「平和と権利を守る闘い」を闘い続けてきました。

独占資本は戦争による破かいから復活したことはもとより、企業合同、業者間の価格協定、金融、販売原料確保を安定させるための統制、組織の充実をはかつています。

労働者は戦後十三年の闘いで、統一行動を発展させ、地域行動を強め、組織の欠陥を克服しながら前進をしめました。

しかしこれらの諸闘争は、勤評反対闘争にみられるように独占資本と労働者階級の対立をはげしくさせました。

このようなとき組織の強化と組合運動を点検し、これからの正しい方向を見出すことは大切なことです。

レーニンの「青年婦人論」ではあたかも知識人のように

1、研究会活動をする場合、研究会で覚えたことを棒暗記して階級的な言論をふるまうことは正しい学習態度でない。

2、年配者と話合うとき、年寄りは封建的だ、反動的だときめつけ彼等の意見を全然聞こうとしない態度はよくない。どんな人の意見も聞き、そのよい点を区別する態度が必要である。

3、学習で得た知識は自分のものとして他人に十分説得できる実践的なものでなくてはならないとおしえています。

労働組合運動や社会主義運動はまだ十分正しい意味で大衆に理解されていない上に、労働組合への組織への組織分裂、弾圧の攻撃がはげしくなつてきています。

私達は正しい学習によつて、古い人の経験から学び、正しい運動をおこさねばなりません。

そのための指針をレーニンの「青年婦人論」は克明におしえています。

明日を創る仲間のみなさんに一読をすすめたい立派な本だと思います。

（や）

レーニン著　青木書店　七十円